

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成24年8月30日(2012.8.30)

【公表番号】特表2011-528643(P2011-528643A)

【公表日】平成23年11月24日(2011.11.24)

【年通号数】公開・登録公報2011-047

【出願番号】特願2011-519205(P2011-519205)

【国際特許分類】

B 6 2 K 5/04 (2006.01)

B 6 0 G 17/015 (2006.01)

B 6 0 G 1/02 (2006.01)

B 6 0 G 17/005 (2006.01)

【F I】

B 6 2 K 5/04 D

B 6 0 G 17/015 Z

B 6 0 G 1/02

B 6 0 G 17/005

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月9日(2012.7.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項9】

前記複動アクチュエータ(401)の2つのチャンバ(431、432)は、単一の弁(457)を備えた単一のパイプ(455)により接続されていることを特徴とする、請求項6に記載の装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項17

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項17】

前記車両は三輪車であることを特徴とする、請求項16に記載の車両。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

図2(c)に示されるように、フレーム200の端部に取り付けられた取付け板281は、第4の孔部324、第5の孔部325、および第6の孔部326を有しており、それらは1つの円上において当該円の中心に対して120度の間隔をなすように配置されている。この円の直径は、取付けラグの3つの孔部321、322、323が配置されている円の直径と同一である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 4 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

図2( b )に示すジョイント300は、略平行な2つの面を備えるゴムバネ部材である。中心部の開口はジョイント300の径方向の弾性を増すことに寄与している。ジョイント300は、第1の開口331、第2の開口332、第3の開口333、第4の開口334、第5の開口335、および第6の開口336を有しており、これらは前記2つの面の各々において開口している。各開口の軸はこれらの面に直交している。

【手続補正5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 9 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 9 2】

2つのアクチュエータの反対のチャンバ同士を接続すると、緩衝時にのみアクティブとなる2つのアクチュエータ V D、V Gを接続する導管部分の作用によってポンピングを制御できる。結果としてサスペンション部材SUSの緩衝機能を省略してバネのみで代えることが可能である。